



2018年（平成30年）10月期

第2四半期 決算説明会資料

株式会社オービス

代表取締役社長 なかはま 中浜 ゆうじ 勇治
(東京証券取引所（ジャスダック市場）、証券コード：7827)

2018年6月22日



2018年10月期第2四半期 決算説明会資料

PART1 会社の概要

PART2 2018年10月期第2四半期の個別業績

PART3 市場環境と今後の取組み

PART4 2018年10月期の個別業績予想

梱包用木材の国内最大手

当社は、木材、ハウス・エコ、ライフクリエイト、不動産の4つの事業を基盤にビジネスを展開しております。特に主力の木材事業では、梱包用木材の製材及び販売において、国内最大手の評価を頂いております

会社名	株式会社オービス (ORVIS CORPORATION)
設立	昭和34年11月
代表取締役社長	中浜 勇治 (なかはま ゆうじ)
資本金	6億8,498万円
従業員数	178名 (2018年04月末現在)
売上高	43億円 (2018年04月期末)
事業内容	梱包用材等の製造、販売、プレハブハウスの製造、販売、仮設建物等のリース、一般建築及び太陽光発電システムの請負、自然エネルギー等による発電事業、フィットネスクラブ及びゴルフ場の運営、不動産の賃貸及び売買
本社	〒729-0104 広島県福山市松永町六丁目10番1号
連結子会社	該当なし (2016年05月に株式会社バルを吸収合併)

社名の由来



オービス (ORVIS) とは、ラテン語で「創設者・出発点」という意味を持つ「origao」と「パワー・効力」という意味の「vis」を組み合わせた造語です
みなぎる活力で未来を創造していきたいという企業テーマを象徴しております

事業拠点

福山本社 大阪
仙台 姫路
東京 岡山
千葉 豊栄
名古屋 広島



経営理念

顧客満足・社員満足

当社の経営理念「顧客満足・社員満足」は、「お客様が満足して使用できるものを生産・提供することにより社会に貢献し、それにより社員の生活の向上を図り、株主の皆様にも利益を還元していく」という意味をあらわしております

■ 当社の主要な沿革

昭和34年11月	有限会社中浜材木店を設立	平成14年11月	中須ゴルフ倶楽部の営業譲渡を受け、営業開始
昭和37年05月	広島県世羅郡世羅西町 (現世羅町) に製材工場を建設	平成15年05月	広島県福山市に賃貸マンションを取得し、不動産賃貸開始
昭和43年03月	ニュージランド松の製材工場建設 同時にプレハブ部材の生産開始	平成18年09月	ジャスダック証券取引所に上場 (現東京証券取引所JASDAQ市場)
昭和46年06月	広島県福山市に製材工場移転 同時にプレハブハウスの完成品を販売開始	平成20年08月	木材事業姫路工場稼働開始 (平成26年11月閉鎖)
昭和49年09月	有限会社中浜材木店を組織変更し、中浜木材株式会社を設立	平成22年02月	太陽光発電パネル等の施工・販売の開始
昭和62年12月	広島市西区に賃貸ビルを建設し、不動産賃貸開始	平成27年11月	フィットネスクラブ「スポバル」オープン
平成01年04月	カラオケハウスの製造販売開始	平成28年01月	カラオケ事業から撤退
平成04年04月	株式会社オービスに商号変更	平成28年04月	広島県福山市松永町へ本社を移転
平成12年12月	パナマにTUI MARITIME S.A.を設立 (平成26年09月解散)	平成28年05月	株式会社バルを吸収合併
平成14年08月	木材運搬船「グリーンホープ」(最大積載量35,000トン) 完成、航海開始 (平成26年05月売却)	平成30年06月	木材事業福山工場稼働開始

PART1 会社の概要

PART2 2018年10月期第2四半期の個別業績

PART3 市場環境と今後の取組み

PART4 2018年10月期の個別業績予想

1. 要約四半期貸借対照表

(単位：百万円)

摘要	2017年 第2四半期末	構成比	2018年 第2四半期末	構成比	増減
◆ 流動資産	5,002	40.2%	5,030	34.1%	27
◆ 固定資産	7,454	59.8%	9,742	65.9%	2,288
資産合計	12,457	100.0%	14,773	100.0%	2,315
◆ 流動負債	5,938	47.6%	7,328	49.6%	1,390
◆ 固定負債	4,033	32.4%	4,229	28.6%	195
負債合計	9,972	80.0%	11,558	78.2%	1,585
純資産	2,485	20.0%	3,215	21.8%	729
負債・純資産合計	12,457	100.0%	14,773	100.0%	2,315

◆ 自己資本比率
20.0% → **21.8%**

◆ 有利子負債比率
58.3% → **58.2%**

主な増減理由

- 流動資産⇒リース未収入金 + 385百万円(ハウス部門の回収期間が長い官公庁大型物件の売上計上により増加)
⇒その他 △360百万円(主は木材の原材料調達(ニュージランド産ラジアータ松)に係る前渡金の減少、仕入計上時期のタイミング差)
- 固定資産⇒建物及び構築物 + 1,299百万円(木材福山工場の事務所棟・工場棟及びコンクリート舗装等を建設仮勘定から振替)
⇒建設仮勘定 + 754百万円(木材福山工場の製材機械の本体・据付工事費)
- 流動負債⇒短期借入金 + 1,400百万円(木材福山工場の建物(事務所棟・工場棟)及び製材機械の本体・据付工事費に係るつなぎ資金)
- 固定負債⇒その他 + 245百万円(主は売電目的の太陽光発電設備等の資金調達について、ファイナンス・リースを活用したことによるリース債務の増加)
- 純資産 ⇒利益剰余金 + 737百万円(四半期純利益の計上)

2. 要約四半期損益計算書

(単位：百万円)

摘要	2017年 第2四半期 累計実績	百分比	2018年 第2四半期 累計業績予想	2018年 第2四半期 累計実績	百分比	対前年 同期比	対業績 予想比
売上高	4,232	100.0%	4,266	4,368	100.0%	103.2%	102.4%
売上総利益	681	16.1%	638	655	15.0%	96.1%	102.6%
販売費及び 一般管理費	598	14.1%	633	606	13.9%	101.2%	95.7%
営業利益	82	2.0%	5	48	1.1%	59.2%	957.0%
経常利益又は 経常損失(△)	62	1.5%	△29	20	0.5%	32.6%	—%
四半期純利益	212	5.0%	649	697	16.0%	327.6%	107.4%
1株当たり 四半期純利益	123円00銭	—	375円15銭	402円98銭	—	—	—

主な増減理由

- ▶ 木材事業⇒⇒⇒(受注及び生産は好調に推移したものの、原材料価格(ニュージーランド産ラジアータ松)の上昇を販売価格へ転嫁できなかったことにより、営業赤字に転落)
- ▶ ハウス・エコ事業⇒⇒⇒(工事採算性を重視した受注推進の徹底と原価低減により、売上総利益率が上昇)
(売電目的の太陽光発電所の稼働は、前期末の11MWから12.5MWへ増加、収益に貢献)
- ▶ ラフクワイエ事業⇒⇒⇒(ゴルフ場部門は、引続きコースメンテナンス管理の充実を図ったことにより、前年同期を上回る来場者数を確保)
(開店3年目のフィットネス部門の赤字は減少、会員数は徐々に増加)
- ▶ 全体⇒⇒⇒(主力の木材事業において、原材料価格の上昇を販売価格へ転嫁できなかったことにより、利益面は厳しい状況で推移。しかしながら、特別利益に木材福山工場の建設に伴う補助金収入9億43百万円の計上により大幅な増益)

3. 要約四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

摘要	2017年 第2四半期 累計期間	2018年 第2四半期 累計期間
営業活動によるキャッシュ・フロー	△364	407
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,516	△262
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,531	△115
現金及び現金同等物の四半期末残高	456	442

継続的なフリーキャッシュ・フローの獲得が課題

主な増減理由

- ▶ 営業活動によるキャッシュ・フロー
 - 税引前四半期純利益 +990百万円
 - 減価償却費 +198百万円
 - 仕入債務増加額 +197百万円(ハウス部門の大型物件の受注によって支払手形での支払が増加)
 - その他 +402百万円(消費税等の還付金)
 - 補助金収入 △943百万円(木材福山工場建設に係る補助金)
 - 売上債権増加額 △554百万円(ハウス部門の回収期間が長い官公庁大型物件の売上計上により増加)
- ▶ 投資活動によるキャッシュ・フロー
 - 有形固定資産の取得による支出 △1,236百万円
 - (売電目的の太陽光発電所の取得及び木材福山工場の建物(事務所棟・工場棟)及び製材機械の本体・据付工事費)
 - 補助金収入 +943百万円(木材福山工場建設に係る補助金)
- ▶ 財務活動によるキャッシュ・フロー
 - 長期借入収入 +830百万円(既存借入金返済資金400百万円(借換)、ハウス部門官公庁長期回収物件 施工代相当額200百万円、木材福山工場建設資金230百万円)
 - セール・アンド・リースバックによる収入 +283百万円(売電目的の太陽光発電設備についてファイナンス・リースを活用)
 - 短期借入金減少額 △600百万円(木材福山工場の建設に係る補助金9億43百万円の入金により、一部返済に充当)
 - 長期借入金返済額 △584百万円(約定返済)

4. セグメント業績 木材事業

- 販売の基本方針は、安値販売を排除し、適正な販売価格を維持すること（必要以上に出荷量の拡大を迫らず）。
 - ✓ お客様への営業訪問回数を増加し、顧客ニーズを的確に把握。
- NZ材等の製品出荷量は42千㎡（前年同期比95.9%）。
- 丸太価格は、国産スギは安定して推移したものの、NZ松は中国需要が旺盛で高騰（合算で前年同期比102.6%）。
 - ✓ 国産スギの消化量は増加（前年同期比144.7%）。
- 受注は継続して好調を維持。丸太消化量は福山工場の試運転の影響で減少（前年同期比96.3%）。
- 製品平均販売価格は、競合樹種であるチリ材の安値販売の影響で僅かな上昇にとどまる（前年同期比102.4%）。
 - ✓ 原材料価格の上昇分を販売価格に転嫁できず苦戦を強いられる。
- 国産スギ・桧・北海道カラ松等の商材販売量は27千㎡（前年同期比109.6%）と四半期ベースで過去最高を記録。
 - ✓ 短納期対応のものや本社工場（広島県福山市）から遠方（関西以東）のお客様には、商材販売を積極的に活用。
 - NZ材等製品出荷量及び国産スギ・桧・北海道カラ松等の商材販売量の合計は69千㎡（前年同期比100.6%）。
 - 有形固定資産の耐用年数の短縮により営業損失が26百万円増加。



(単位:百万円)

摘要	2017年 第2四半期 累計実績	百分比	2018年 第2四半期 累計実績	百分比	対前年 同期比
売上高	2,491	100.0%	2,540	100.0%	102.0%
営業費用	2,421	97.2%	2,563	100.9%	105.8%
営業損益	69	2.8%	△22	—%	—%
平均為替 レート	109円51銭	—	112円28銭	—	102.5%

4. セグメント業績 ハウス・工事業

- リース物件において官公庁の大型物件が完工、民間の大型物件の受注による収益への貢献は第3四半期以降となる。
 - ✓ 粗利率の向上を目的とした受注時採算性の強化、原価・施工管理の徹底を継続。
 - ✓ 引き続き、官公庁の仮設校舎や放課後児童クラブ等の入札へ積極的に参加。
 - ✓ 重量鉄骨造での工場・倉庫や学校関連を中心とした官公庁施設の伸長分野への営業強化。
 - ✓ 施工管理要員の積極的な採用を継続するとともに、施工管理者の育成に注力。
 - 太陽光発電所の売電収入は1億81百万円（前年同期比119.6%⇒上記数値の内数）。
 - ✓ 太陽光発電所の発電規模は、前期末の約11MWから約12.5MWへ増加。
 - ✓ 当社の太陽光発電所は自社施工。一般的な施工価格に比べ2～3割安く施工することが可能であり、その結果、投資利回りが非常に高く投資額の回収期間は5年～7年を想定。

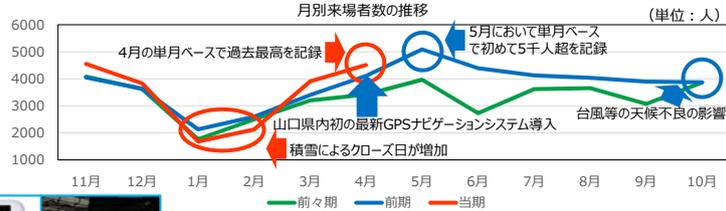


(単位:百万円)

摘要	2017年 第2四半期 累計実績	百分比	2018年 第2四半期 累計実績	百分比	対前年 同期比
売上高	1,505	100.0%	1,584	100.0%	105.2%
営業費用	1,415	94.0%	1,433	90.5%	101.3%
営業損益	89	6.0%	150	9.5%	167.6%

4. セグメント業績 ライフクリエイト事業

- ▶ ゴルフ場部門は、1月及び2月において積雪の影響によるクローズ日が多く発生したものの、積極的な設備投資やコースメンテナンスの充実を図り、他コースとの差別化に努めた結果、来場者数は20,603名となりました（前年同期比103.4%）。
- ✓ 一層のサービス向上とゴルフカートや作業機械設備の更新等によりプレイヤーから高い評価と信頼を得ております。その結果、昨年は山口県内において18ホール換算の来場者数はNo.1、予約の取りにくいゴルフ場として評判をいただいております。



中須ゴルフ倶楽部のGPSナビ (上段)
スポルズ緑町店のインドアサイクル (下段)

- ▶ フィットネスクラブは、広島県初となるスタジオプログラムの導入により新たなサービスの提供を開始。新規入会者の獲得と退会者の抑制に注力。
- ▶ 2018年4月末の会員数は1,167名（前年同期比109.8%）、5月以降も会員数は増加基調を維持。

摘要	2017年 第2四半期 累計期間	百分比	2018年 第2四半期 累計期間	百分比	対前年 同期比
売上高	188	100.0%	196	100.0%	104.0%
営業費用	200	106.3%	199	101.7%	99.5%
営業損益	△11	—%	△3	—%	—%

PART1 会社の概要

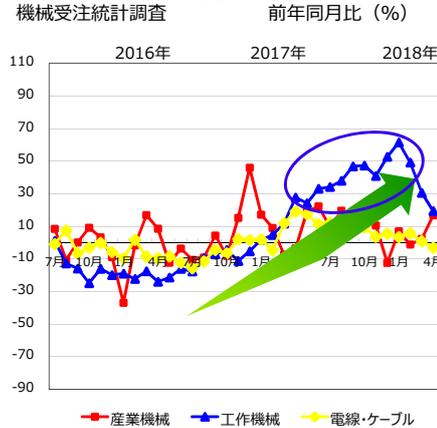
PART2 2018年10月期第2四半期の個別業績

PART3 市場環境と今後の取組み

PART4 2018年10月期の個別業績予想

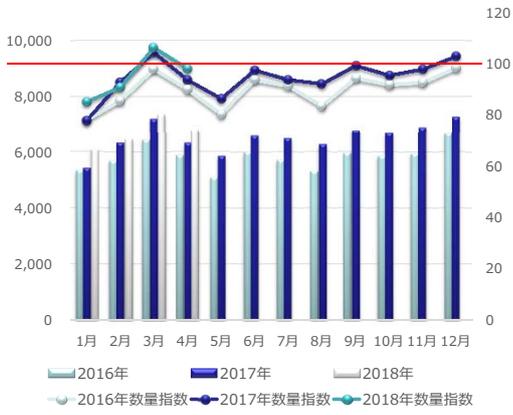
■ 木材事業の市場環境 ①～梱包用材のエンドユーザーの環境

➢ 産業機械及び工作機械の受注状況
内閣府経済社会総合研究所
機械受注統計調査



- ✓ 受注はいずれも回復傾向
- ✓ 特に工作機械の2017年度の受注額は2007年以来、10年ぶりに過去最高を更新

➢ 輸出の状況（財務省貿易統計）（十億円,%）

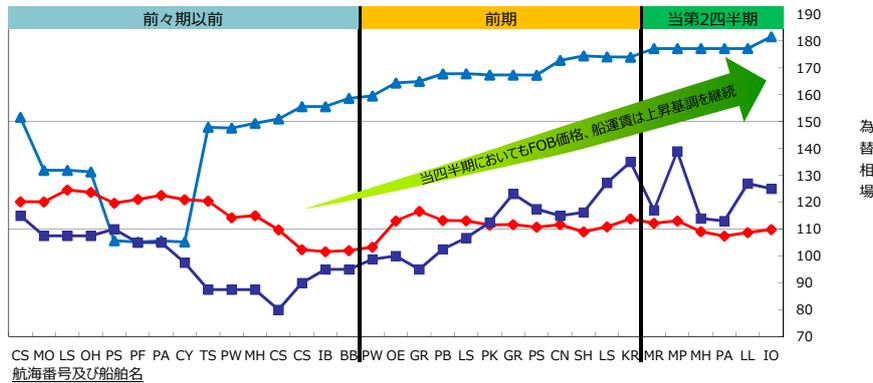


- 輸出金額及び輸出数量
※輸出数量指数は2010年を100とした数値
- ✓ 輸出金額は増加傾向、輸出数量は依然として低調

■ 木材事業の市場環境 ②～原材料仕入コストの環境

➢ 為替（対米ドル）、FOB価格（ニュージージーランド産ラジアータ松）、船運賃の推移

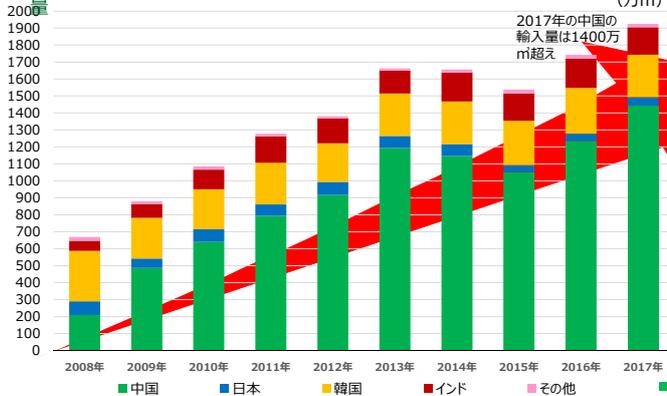
- 為替は、各航海の平均為替レートを表示（右軸）
- ▲ FOB価格及び ■ 船運賃（1㎡当たり）は、推移の動向を表示しており実際の金額は非公表（円/US\$）



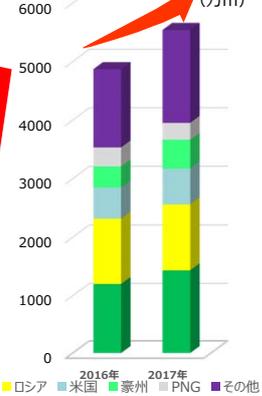
- 為替（対米ドル）は、トランプ氏の米国大統領選挙の勝利（2016年11月）を受けて、101円から1ヶ月で118円へと急激に円安が進行。その後も110円台で推移。
- FOB価格は、ニュージージーランド国内の移民向けを中心に住宅価格が上昇しており、木材需要が旺盛なことに加え、最大消費国である中国の需要増によって、年間を通して上昇基調を維持。
- 船運賃は、中国の鉄鉱石輸入量の増加の影響等で、全体的な荷動きが活発となり、原油価格の上昇と相まって、2016年の夏場以降、上昇基調に転じる。

■ 木材事業の市場環境 ②～原材料仕入コストの環境

▶ ニュージーランド産ラジアータ松（丸太）の国別輸入



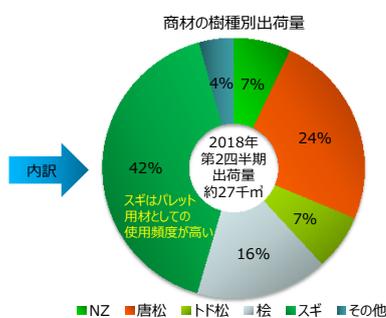
▶ 中国の国別丸太輸入量（万m³）



- ▶ 2017年のNZ松（丸太）全体の国別輸入量は、中国が1,400万m³（全体の約7割強、日本は約51万m³）超となり、過去最高を記録。同国の天然木伐採規制の強化や需要の増加により前年比約17%増加し、木材需要を輸入で賄っている構図。2018年に入っても中国の購買意欲は引続き旺盛。
- ▶ 中国の2017年丸太輸入量は、5,540万m³（前年比約14%増）となり、過去最高を記録。NZ松（前年比17.0%増）及びロシア材（前年比1.0%増）が上位を占める。
※日本の2016年木材総需要量が約7,800万m³（原木換算）であったことを勘案すると、市場規模の大きさがわかる。

■ 木材事業：取組みの進捗状況

- ▶ 福山工場の試運転を2018年4月より開始、2018年6月に旧工場から福山工場へ大半の生産をシフト。
 - ✓ 試運転開始後の一時的な生産量の落ち込みは、商材（スギ・桧・北海道カラ松等）を活用。
 - ✓ 2018年11月のフル操業に向けて、人材の育成と製材機械の調整に注力。
 - ✓ 国産スギ丸太の仕入先開拓に注力した結果、消化量は前年同期比144.7%。
- ▶ 国産材（スギ・桧・北海道カラ松等）及びLVL等の商材を有効活用。
 - ✓ 短納期のものや運送コストが増える関西以西の取引先には商材を積極的に活用。
 - ✓ スギ、桧、北海道カラ松で商材出荷量全体の約8割を占める。
 - ✓ 当第2四半期の商材売上高は9億22百万円（前年同期比110.1%）。



■ 木材事業：今後の取組み ①～福山工場（新工場）の建設

ターゲットは

NZ松、チリ松と比較して価格競争力がある国産スギの取扱いを増加させるとともに
新たなサービスの提供によりスギ製品の値上げを行い収益の向上を図る



■ 木材事業：今後の取組み ②～福山工場（新工場）の建設

- ▶ 木材事業福山工場（新工場）の建設理由。
 - ✓ 昭和62年に建設され30年が経過し老朽化が進んだ現工場を移転し、更なる生産効率・品質の向上を図る。
 - ✓ 姫路工場操業停止（2014年4月⇒同年11月閉鎖）以降、2交代で操業を続ける現工場の労働環境を改善。
 - ✓ 広島県福山市から2016年2月に売却された近隣土地を落札。
- ▶ 木材事業福山工場（新工場）の概要。
 - ✓ 名称及び住所…株式会社オービス福山工場、広島県福山市柳津町1丁目11番8号
 - ✓ 総投資額…約49億円（銀行借入を予定）…うち約9.5億円は2018年3月に広島県からの補助金を受領済。
 - ✓ 試運転を経て**2018年6月から本格稼働開始（徐々に生産量を増やし2018年11月にフル生産開始予定）。**
- ▶ 福山工場（新工場）建設の主なメリット

摘要	現工場	福山工場（新工場）	メリット
原材料	NZ松（丸太）	NZ松（丸太）及び 国産スギ（丸太）	✓ 為替動向やFOB価格等の外的要因に影響を受けにくい国産スギを大量生産。品種の相違する原材料を調達することで安定的な原材料の確保と効率的な営業戦略を実行することが可能
年間生産量	約132千m ³	現工場と同量を 日勤のみで生産可能	✓ 残業や休日出勤の減少により1m ³ 当たりの製造コストを削減
工場敷地面積	約10千m ²	約21千m ²	✓ 現工場の2倍以上の敷地面積を有し、生産ラインの大幅な効率化を表現
工場従業員の勤務形態	日勤と夜勤の2交代制 （残業＋土曜日稼働）	日勤 （残業無の土曜日休暇）	✓ 工場従業員確保の問題解消 ✓ 労働環境の改善
歩留率	-	現工場より最低1%向上	✓ 1%の向上で年間30百万円～40百万円の利益増加
長さ4m ³ 超の製材	製材不可 （少量を外注生産）	長さ4m ³ 超も製材可能	✓ 大口輸出梱包業者への販路拡大 ✓ 納期大幅短縮に伴う受注の増加

■ 木材事業：今後の取組み ③～福山工場（新工場）の建設

➢ 旧工場の弱点解消のための主な設備



■ 木材事業：今後の取組み ④～福山工場（新工場）の建設

➢ 木材福山工場の主要設備（全体）



■ 木材事業：今後の取組み ④～福山工場（新工場）の建設

➢ 木材福山工場の主要設備の詳細



① ツインバンドソー（丸太から角材へ製材）、カッティングパターンを決定する心臓部分、帯鋸で製材した後の反転スピードが大幅アップ



② ツインセンターカット（①で製材した角材を3枚にカット）



①と②の設備により、旧工場の生産能力の2倍を確保



③横バンド（背板のカット）、台数を増やすことにより、①の製材回数が半分に減少（生産効率が飛躍的に向上）



■ 木材事業：今後の取組み ④～福山工場（新工場）の建設

➢ 木材福山工場の主要設備の詳細



④ ギャングリッパー（6枚鋸）、背板を最大で5つの明細にカット



⑤ センターカット（木材の中央を2つにカット）、木材を真っ二つにカットする設備でカット回数を増やすほど、製品の歩ムラが少なくなり、品質を確保するうえで必要不可欠な設備



⑦ ビンソーターライン（製品の搬送・選別機）、折れにくい厚みのある製品を仕分、NZ松とスギの2品種対応に加え、多くのサイズに対応することが可能



⑥ スリーエッジヤー（3枚鋸）、背板を2つの明細にカット、カット幅を変更することが可能



⑦ ビンソーターライン（製品の搬送・選別機）、折れにくい厚みのある製品を仕分、NZ松とスギの2品種対応に加え、多くのサイズに対応することが可能



⑦ ビンソーターライン（製品の搬送・選別機）、折れにくい厚みのある製品を仕分、NZ松とスギの2品種対応に加え、多くのサイズに対応することが可能

■ 木材事業：今後の取組み ④～福山工場（新工場）の建設

▶ 木材福山工場の主要設備の詳細

⑧旧工場0基→福山工場新設



⑧棚ソーターライン（製品の選別機）、NZ製品は節が大きく⑦のピンソーターでは厚みのない製品は仕分の段階で折れてしまうため、同設備を使用することで折れ材を減少させる

⑧



⑨旧工場0基→福山工場新設



⑨シングル台車（長さ8mまでの丸太を製材）、大型梱包に使用する長尺製品を生産

⑩



⑩トラック積載装置

⑪



⑪防カビ装置、長さ4mから8mの製品の防カビ処理が可能

⑫旧工場2基→福山工場3基

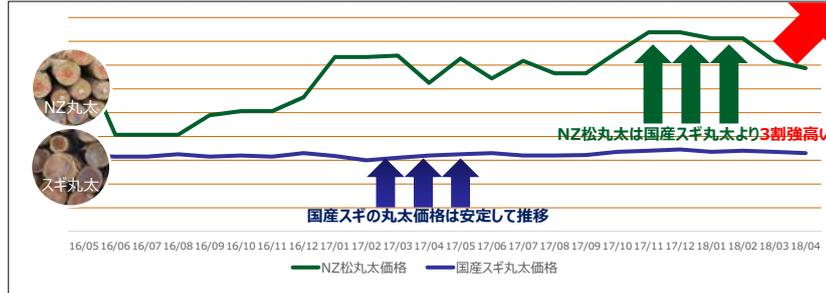


⑫木材乾燥機、旧工場は50m²タイプが2基、福山工場は70m²タイプが3基

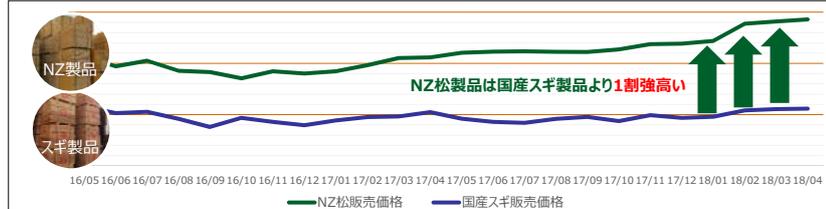
23

■ 木材事業：今後の取組み ⑤～福山工場（新工場）の建設

▶ NZ松と国産スギの丸太価格（1m当たり）の推移（仕入ベース）※実際の仕入単価は未公表



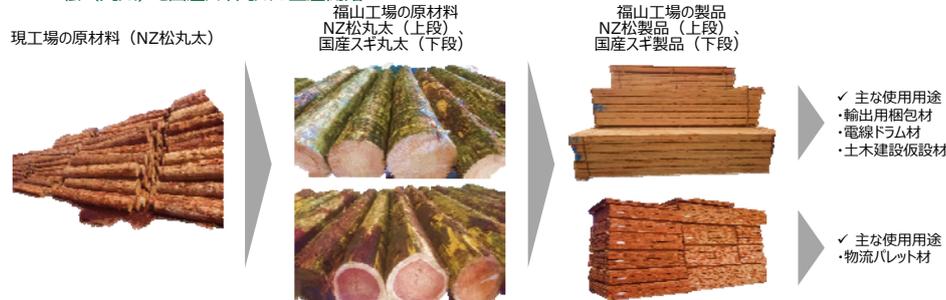
▶ NZ松と国産スギの販売価格（1m当たり）の推移 ※実際販売価格は未公表



24

■ 木材事業：今後の取組み ⑥～福山工場（新工場）の建設

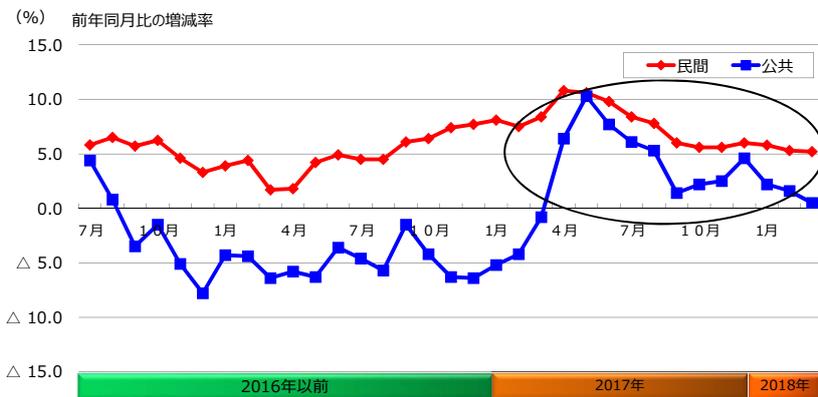
➢ NZ松（丸太）と国産スギ丸太の生産開始



- 工場の製造コストに占める材料費の割合は7割強から8割。
- 物流用パレット材は、国産スギ製品への代替が定着（1.1m超の長さにかットして使用）。
- NZ松（丸太）の現地価格は中国需要によって大きく変動。国内の製材工場は、梱包材・パレット材等の実需に関係なく原料料コストが大幅に変動し、利益を確保しづらい状況。
- 樹種別で高齢級になるほど、スギ比率が高く今後スギ大径低質材の生産量の増加が予想され、十分な国内需要があるとは言い難い状況。
- 2016年全国の国産材生産量は2066万m³。そのうちスギは約57%の約1,185万m³を占めており資源が豊富。
- 福山工場（新工場）で生産する国産スギ丸太は、一般的な製材工場（柱・梁桁等の生産）で需要が少ない大径低質材を活用。NZ松（丸太）と比較して安価で調達（継続的）を行うことが可能。
- 原材料の調達（これまではNZ丸太1樹種）に対するリスクヘッジが可能。
- 梱包材等は消耗資材。顧客の最優先事項は短納期と販売価格→安価な国産スギ丸太を付加価値を付けて大量生産→納期の短縮や顧客の要望するサイズにジャストカットを行い、生産コストの低減等を実行しつつ、NZ・チリ産製品より価格競争力のあるスギ製品の値上げを行い、収益の向上を図る。

■ ハウス・エコ事業の市場環境

➢ 建設総合統計（出来高ベース）国土交通省公表



- ✓ 建設需要は、民間投資及び公共投資は持ち直しの兆し（公共投資も2017年4月以降プラスに転じる）が見られる。

●ハウス・エコ事業：今後の取組み

- 建設需要への取組み
 - ✓ 学校の耐震改修のための仮設校舎や放課後児童クラブ等の官公庁入札へ積極的に参加。
 - ✓ 物件の大型化が進んでおり、プレハブ建築以外の重量鉄骨造による在来工法やシステム建築等にターゲットを定め、億単位の大型物件の受注獲得と受注件数の増加を目指す。
2017年11月には、工場棟の大型物件の受注を獲得（施工実績を評価いただき、ご紹介を受け成約に至る）。また、2018年6月には官公庁の大型物件を複数受注。
 - ✓ 受注時採算性の強化による現在及び将来にわたっての利益率向上への更なるこだわり（利益率重視の取組みが浸透しつつある）をもち、継続的成長を目指した計画的な人材育成の実践。
 - ✓ 2018年は労務費の高騰や資材価格上昇等の懸念材料があるが、従来にも増して原価・施工管理の徹底を図り、現場力の強化を推進。
- 太陽光発電への取組み
 - ✓ 再生可能エネルギー政策の転換に合わせ、50kW以下の低圧案件の取込みに注力。
 - ✓ 一般電気工事の入札への積極的参加。

◆2018年12月完工予定の工場棟の現場



●ライフクワイエット事業：今後の取組み

- ゴルフ場部門は、お客様の利便性の向上を目的とした設備の導入・改修及び各種イベントを積極的に開催し、近隣コースとの差別化を図り、更なる魅力あるゴルフ場づくりへの取組みを実行。
 - ✓ 従業員チャレンジコンペの開催増加。
 - ✓ ゴルフカートの新及びカート道路の改修工事。
 - ✓ フェアウェイへの目土を継続（良好なコース状態を継続的に維持）。
 - ✓ 全国うまい物フェア等を開催し、季節毎に厳選された食材をふんだんに使用した飲食メニューを提供。
- フィットネス部門は、オープン3年目を迎え、通期で営業黒字化を目指す。
 - ✓ 広島県内初のスタジオプログラムの導入効果もあり、会員数は継続的に増加。期末には1,400名の会員数の獲得を目指す。
 - ✓ 入会・紹介キャンペーンの実施、各種イベントを積極的に開催。
 - ✓ 2018年5月には単月で初めて営業黒字を達成。



中須ゴルフ倶楽部の全国うまい物フェア



Surf Fit
JAPAN

VFR
WORKOUT

スポバル福山緑店の広島県内初導入のスタジオプログラム

PART1 会社の概要

PART2 2018年10月期第2四半期の個別業績

PART3 市場環境と今後の取組み

PART4 2018年10月期の個別業績予想

1. 個別業績予想（通期）

（単位：百万円）

摘要	2017年 （個別実績）	百分比	2018年 （個別予想）	百分比	対前期比
売上高	8,118	100.0%	9,215	100.0%	113.5%
売上総利益	1,404	17.3%	1,392	15.1%	99.1%
販売費及び一般管理費	1,197	14.7%	1,307	14.2%	109.2%
営業利益	207	2.6%	84	0.9%	40.8%
経常利益	163	2.0%	11	0.1%	7.3%
当期純利益	278	3.4%	695	7.5%	249.7%
1株当たり当期純利益	160円86銭	—	401円72銭	—	—

通期の業績予想は、下期の原材料価格（ニュージーランド産ラジアータ松）や為替市場（米ドル）の動向等に不確定要素が多いことから、前回予想値を据え置いております。

2. 株主還元 – 配当方針と実績

当社は株主の皆様に対する利益還元を経営上の重要課題と認識しており、将来の事業計画、設備投資及び経営安定化のための内部留保に努めるとともに、業績に応じた適正な利益配分を考慮しつつ、安定的な配当を継続して実施していくことを基本的な方針としております。

摘要	中間配当 (円)	期末配当 (円)	年間配当 (円)	当期純利益 (千円)	配当性向 (%)
2012年10月期	0.00	5.00	5.00	65,692	13.2%
2013年10月期	0.00	0.00	0.00	△1,153,387	—%
2014年10月期	0.00	10.00	10.00	1,241,579	1.4%
2015年10月期	0.00	10.00	10.00	370,254	4.7%
2016年10月期	0.00	15.00	15.00	523,211	5.0%
2017年10月期	0.00	15.00	15.00	278,458	9.3%
2018年10月期 (予定)	0.00	20.00	20.00	695,385	5.0%

個別決算へ移行

安定的な配当を継続して実施することを基本的な方針としておりますが、木材福山工場の安定稼働後に具体的な配当性向の目標値を定めたいと考えております。

● 本資料お取扱上のご注意



2017年06月より広島空港搭乗口 (JAL側) に広告を行っております

本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。

本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。

本資料中の業績予想並びに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる

結果となることをご承知おきください。

➤ IR担当窓口



株式会社 オービス 経理部 井上清輝
 Tel. 084-934-2621 (代) Fax. 084-934-2624
 E-mail : ir@orvis.co.jp
 URL : http://www.orvis.co.jp